

「医療経済学会 第14回 研究大会」 開催報告

2019年9月7日（土）に国際医療福祉大学 東京赤坂キャンパスにおいて、池田俊也氏（国際医療福祉大学 医学研究科 教授）を研究大会長として「医療経済学会 第14回 研究大会」が開催されました。過去最多の235名の皆様にご参集を頂き、盛会裏に終了致しました。

一般演題は4会場に分かれ、21演題もの多岐に渡る発表がなされました。それぞれの演題で若手からベテランまで幅広い年齢層による活発な議論が行われました。「第12回 若手研究者育成のためのセミナー」も同時に開催され、若手研究者への実践的なアドバイスを提供する機会も設けられました。



特別講演では、「医療の構造改革：変わるのは今だっ！」との題目で、日本の医療提供体制の現況や問題点、今後の保険給付の在り方や製薬産業への期待などについて、厚生労働省 医務技監 鈴木 康裕 氏からご講演を頂きました。続くシンポジウムにおいては、「費用対効果評価の制度化～残された課題と今後の対応を考える～」をテーマに、医薬品・医療機器の費用対効果評価の制度化に関する基調講演を福田 敬 氏（国立保健医療科学院 保健医療経済評価研究センター長）より、費用対効果評価制度の残された課題に関する基調講演を五十嵐 中 氏（横浜市立大学医学群 健康社会医学ユニット 准教授）より行って頂き、その後、池田 俊也 氏をモ

デレーターに、基調講演演者と中村 洋 氏（慶應義塾大学院 経営管理研究科 教授）、野口 晴子 氏（早稲田大学 政治経済学術院 教授）、後藤 励 氏（慶應義塾大学院 経営管理研究科 准教授）をパネリストとした活発なディスカッションが行われました。シンポジウムの最後には、遠藤 久夫 氏（国立社会保障・人口問題研究所 所長）より、費用対効果評価の制度化が行われた経緯や、「教科書的な費用対効果評価」と「現実的な費用対効果評価」のバランスや「イノベーションやアクセスの促進」と「薬剤費の増加抑制」のバランスなど今後の課題も含めた議論の総括がなされました。



お昼に開催された総会の中では表彰も行われました。佐野 隆一郎 氏（東京大学大学院 医学研究科 公共健康医学専攻保健社会行動学分野）の「労働時間種別による病院勤務医の夜間休日労働の勤務意欲にもたらす影響の検討」が2018年度 学会論文賞を受賞し、医療経済学会 学会長の今中 雄一 氏（京都大学大学院 医学研究科 教授）より表彰状が、医療経済研究機構 所長の西村 周三より副賞が授与されました。本研究大会 若手最優秀発表賞には、金子 周平 氏（早稲田大学 経済学研究科）の「How Does the Natural Disaster Affect the Maternal Labor Force Participation and Children's Outcomes?」が選考され、研究大会長の池田 俊也 氏より表彰状と副賞が授与されました。

最後になりますが、ご参加頂き、活発にご討議頂き、盛会に導いて下さいました皆様方に、深く御礼申し上げます。次の第15回 研究大会は、井伊 雅子 氏（一橋大学大学院 経済学研究科 教授）を研究大会長として、2020年9月5日（土）に一橋大学 一橋講堂（千代田キャンパス）において開催されます。再び多くの皆様のご参集を賜れますよう、願っております。

（医療経済学会 事務局）

